

今年も11月17、18日に行われた武雄市物産まつりにお邪魔して、雄武のうまいもんを販売してきました。3年目の武雄市なので、少しリラックフスして参加できました。漁組から谷山さん、役場から財務企画課の本村さんが物販班として参加しました。谷山さんは2年目なので、お客様との対応も素晴らしく、魚の売り方もさすがでした。本村さんは初めての武雄ということもあり、緊張した面持でしたが、汗をかきかき一生懸命販売してくれました。なかなか息のあった3人組で、とても楽しく仕事ことができました。ありがとうございました。

武雄市は新庁舎も完成し、さらにも図書館もオープンしています。新庁舎は総工費29億円を超える巨大プロジェクトです。6階建の建物の中には全国でも珍しく税務署まで入っています。光をたくさん取り込んだ明るい1階フロアは動線もわかりやすく、市民に必要な係がほとんど集約されていました。目を引いたのは女性の職員が多く、みなさん活き活きと働いていました。職員は男女問わず立っている方が多く、市民の質問にもすぐ対応していました。メインエントランスの横には365日解放されている広々としたホールがあり、喫茶店もあり軽食が食べられます。テーブルがいくつも置いてあり、夕方になると、武雄高校の生徒たちが自習に来て賑わっているそうです。武雄市ごとも図書館は、残念ながら見学する時間がなかったので、早

地域おこし協力隊が行く！

九州は、日本の中でも元気があり、とりわけ武雄市は「よかばいよかばい」精神でがんばっていると感じました。仕事としての武雄行きは今回で最後ですが、個人的に再訪したい「ご縁」ができた場所となりました。

物産まつりの会場を眺めていても子どもを対象にしたイベントが多く、市内の小学生の活動を取り上げ「たけお人間力大賞」として表彰しているのが目を引きました。小松市長がその総括の中で「学校だけではなく、地域社会で子どもを育てることがとても大切なんです」とおっしゃっていたことが印象的でした。

朝ジョギングの途中に立ち寄りしました。有名な武雄市図書館の横に建設された木と、ガラスでできた温もりのある建物です。驚くことに1年間の来館者が30万人（武雄市の人口は約5万人）を超えているという事です。こちらの施設も年中無休で、ボランティア主催のイベントが何らかの形でほぼ毎日あります。



地域おこし協力隊
佐藤 寧

Activity Report

地域おこし協力隊 ～活動レポート～

Everyone's infirmary

みんなの保健室

年末年始はお酒を飲む機会が増える時期ですね。北海道では、昨年「北海道アルコール健康障害対策推進計画」を策定しています。「アルコール健康障害」とは、「アルコール依存症その他の多量の飲酒、未成年者の飲酒、妊婦の飲酒等の不適切な飲酒の影響による心身の健康障害」と定義されています。



習慣的な多量飲酒
週3回以上、かつ1日に純アルコールで約60g以上酒類を飲む人

【参考】純アルコール 20gの概ねの量

酒の種類 (基準%)	酒の量	だいたいの目安
ビール・発泡酒 (5%)	500 mL	中ビンまたはロング缶1本
チューハイ (7%)	360 mL	350mL缶1本
焼酎 (25%)	100 mL	0.5 合強
日本酒 (15%)	170 mL	1 合弱
ウイスキー・ジンなど (40%)	60 mL	ダブル1杯
ワイン (12%)	200 mL	ワイングラス2杯弱

出典：アルコール健康障害対策推進ガイドブック

ご自身のアルコール習慣を見直して、楽しいお酒を飲みましょう。

関保健福祉課保健係

Kids

わんぱくキッズ (若草保育所) ～大きくなったら～



ジュース屋さん

たかのさほちゃん



パティシエ

とよたきょうやくん



ケーキ屋さん

ことうここみちゃん

『切り絵』

Art Museum

小さな美術館 ～沢木小学校～



直井 涼太朗くん (6年)



佐藤 大志くん (5年)



加地 浩武くん (6年)



藤島 凧沙さん (5年)



竹田 琉亮くん (5年)